

## 教育学部

教育改革・群馬プロジェクト 第5部会 ―新たな英語教育のコミュニケーション能力育成に向けた4技能の評価―

担当学科等 英語教育講座

担当者 齋藤 周教育学部長・上原 景子教授

### ◎事業概要

2020年度の完全実施を目指し、「グローバル化に対応した新たな英語教育改革」が現在進行中である。この改革では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を軸として、英語の学習過程の改善を図っていくとされている。次期学習指導要領の外国語教育が現行学習指導要領から最も大きく変わる点は、小・中・高で一貫目標である「英語によるコミュニケーション能力の育成」実現に向け、①外国語活動の小学校3・4年生での実施、②小学校5・6年生での英語科の開始、③言語活動の一層の充実と中・高の接続のため、高校だけでなく、中学校でも英語で英語の授業を行うことが基本とされること、などである。こうした背景から、本部会の平成28年度の目的は、主に以下の2点を研究することとした。(1) 新たな英語教育で求められる「コミュニケーション能力育成の言語活動」のあり方(2)「コミュニケーション能力育成の言語活動」における4技能の目標と評価のあり方

### ◎実施事業等

目標(1)(2)を明らかにするため、①学校現場での授業のあり方、②現職教員の支援、③教員養成における手立ての3側面から、実践的研究を行った。①では、群馬県教育委員会が設営した小・中・高の研究授業、授業研究会、協議会(前橋市立城南小学校11/11、前橋市立第一中学校11/10、群馬県立藤岡高等学校9/2、等)に参加した。②では、現職教員のニーズが非常に高い「英語の発音力向上」と「英語の流暢さ向上」に関する公開講座を小・中・高の現職教員を対象に連携で実施した(8/19に2講座)。③では、義務教育課の指導主事が英語専攻生の教職専門科目の授業で、今後の英語教育の方向性や英語教員に求められる能力に関する実地指導を行った。また、群馬県が文部科学省の英語教育強化拠点事業(義務教育課)と英語指導力向上事業(高校教育課)の取組を行っているため、国の示す方向性等を含む様々な最新の情報の提供を受け、教育現場への専門的知識提供と教員養成での活用を行った。

### ◎期待される成果

上記の3側面から連携事業を行うことで、学校現場と教員養成の双方に以下の効果が期待される。①伝統的な英語教育から新しい英語教育へ大きな変革を目指す具体的な課題を、群馬県の実情に即して示し取り組むことができる。②大学が先進的な理論的情報を提供することで、教育委員会が取り組む現職教員の指導力向上に充実した支援ができる。③連携で行うワークショップで、大学の教員が直接多数の現職教員の指導力向上、英語力向上、自己研鑽力向上に貢献することができ、研究成果を教育現場への支援に活用することができる。④学生が現職教員と、公開授業、授業研究会、研修会等に多数参加することで、英語教育所実践・実情、教師の役割、目指すべき姿を実際の体験を通して学ぶことができる。⑤主導主事が教員養成教職専門授業に大学教員と共に携わることで、実践に即した学びを提供できる。以上から目的(1)(2)を明らかにするとともに、教育現場と教員養成に直接貢献できる。